

ため池の生きもの調査と外来種駆除活動を実施して Biological Survey of Irrigation Ponds and Extermination of Introduced Species

渡辺 祐次
Watanabe Yuji

〇はじめに

ため池は、昔から農業用水を確保するために水を貯え供給する重要なかんがい施設として、日本の農業の発展を支えてきただけでなく、多種多様な生きものが生息する貴重な水辺空間でもあり、豊かな自然を育む生きものとの“ふれあいの場”として、また“憩いの場”として守られてきました。

しかし、近年になって意図的（もしくは非意図的）に持ち込まれた外来種の中には、その地域の生態系の微妙なバランスを崩し、非常に大きな悪影響を及ぼすものがあります。

このたび、ため池の改修計画を策定するにあたり、2箇所のため池において池干しを行うこととなり、この機会を捉え、地域住民が今まで以上にため池に対して関心を持ち理解を深め、長年培ってきたため池の生態系（生物多様性）を将来にわたり保全していただく目的で、地域住民と協働して『ため池の生きもの調査と外来種駆除活動』を実施しました。

〇“ため池”の歴史と“池干し”について

日本における“ため池”の歴史は、西暦700年頃まで遡ると言われており、昔から“ため池”は農業用水の貴重な水源として利用されてきました。

その“ため池”をめぐる様々な営みの中で、主要な行事の一つに“池干し”がありますが、高度経済成長以降、農村環境（農村地域の都市化・混住化、農業者の減少、高齢化など）の変化から“池干し”を行う地域はほとんどみられなくなっていました。

しかし、最近、この“池干し”が見直される傾向にあります。そこで、この“池干し”の役割と効果について考えてみます。

〇“池干し”の役割と効果について

ため池の“池干し”は、定期的（3～5年に1回の頻度）に行うことが重要であると言われています。その理由は、①ため池の掃除・点検・補修、②栄養分の循環（資源循環）、③ため池の富栄養化の防止、④共同作業によるコミュニケーションの場の提供が挙げられます。

①については、水抜きによる取水施設の土砂詰まり防止、水抜き後の堆積した泥の除去、水草の除去などがあります。また、普段確認できない箇所の点検や補修もあります。

②については、有機物を多く含んだ泥水を田畑に流し込んだり、池底に堆積した泥をかき出して堆肥として再利用することです。

③については、定期的に池の水を入れ替える事で水質が改善される事のほかに、“池干し”することで、池底の土が化学変化し、風雨によって余分な栄養分が洗い流され、結果として、ため池の富栄養化を防止するというものです。

④については、この“池干し（水抜き）”という作業が、その集落にとっての一大行事であり、収穫感謝の催事として、また集落のコミュニケーションの場として大切な意味合いをもつ行事でした。

このように“池干し”は、少しの労力で富栄養化の抑制と資源循環という多くの成果が達成できる先人の知恵であるとともに、ため池独特の自然環境は“池干し”などの人為的な管理によって豊かな生態系（生物多様性）を維持してきました。

〇2箇所のため池の概要と活動状況

今回、池干し（調査と駆除活動）を実施したため池の概要と活動状況は、右表のとおりです。

八幡池を含む深萱地区では『深萱ふるさと保全隊』という農地・水・環境保全向上対策（以下「農地・水」と表記）の活動組織が立ち上がっており、平成19年に活動の一つとして八幡池にて池干し（外来種駆除活動）を実施し、2度目の活動となる今回は、子どもたちも参加することから、調査結果を踏まえた『生きもの学習会』を同時開催しました。

〇生きもの調査の結果と考察

生きもの調査の結果は右表のとおりであり、ここから以下の事が考えられます。

- ① 長期にわたり池干し（外来種駆除）が実施されていなかったため池（前沢ダム、八幡池（H19））では、外来種（オオクチバス・ブルーギル）が密放流された事によって、ため池の生息魚類が外来魚やコイ・フナの成魚のみに遷移し、生物の種類が単調となってしまった。

- ② 前回の池干し（外来種駆除）から2年後、ふたたび池干しを実施した八幡池では、従来の生態系（生物多様性）を取り戻しつつあり、外来魚の繁殖は見られなかった。

このことから『定期的なため池の池干しは、外来魚（オオクチバス・ブルーギル）の繁殖を抑制し、ため池本来の生態系（生物多様性）の保全に寄与する。』と考えられます。

〇おわりに

このような結果から、今後は、生態系（生物多様性）の保全という観点からも、もっと地域住民に対して①ため池の存在と役割、②池干しの効果と必要性、③地域住民が参画する保全体制の確立（農地・水・環境保全向上対策の活用など）について、啓発・情報発信し、この活動の輪を広げていく必要があると、再認識させられるものでした。

	前沢ダム	八幡池
現地写真		
活動日	平成21年9月9日	平成21年10月25日
参加者	約40人 (ため池管理者)	約100人 (深萱ふるさと保全隊)
所在地	可児郡御嵩町前沢	加茂郡坂祝町深萱
貯水量	2,000,000m ³	15,500m ³
築造年代	昭和46～54年度	江戸時代？(1700年頃)

	前沢ダム	八幡池	八幡池(H19)
オオクチバス	約1,100匹 (幼魚多数)	成魚3匹 (幼魚なし)	約100kg (成魚60匹)
ブルーギル	約400匹	—	—
ワカサギ	成魚50匹 (30cm以上)	約5,000匹 (成魚30匹)	成魚65匹 (30cm以上)
コイ・フナ	—	約500匹	—
ヨシノボリ類	—	約6,000匹	—
スジエビ	確認できず	メダカ、トンボのヤゴなど	確認できず
その他の	確認できず	メダカ、トンボのヤゴなど	確認できず
前回の池干し	昭和55年 (30年ぶり)	平成19年 (2年)	平成5年 (14年ぶり)

(注)八幡池(H19)は、深萱ふるさと保全隊の聞き取り内容による。

